

## 版画コース 設立30周年を記念した 同窓会が開かれました



9月2日(土)、大学西キャンパスにて「名古屋芸術大学版画コース30周年記念同窓会」が開かれました。1983年に版画コースの前身とも呼べる設立組織が武藏篤彦さん(現京都精華大学教授)を中心に準備され、その5年後の'89年にはコースとして始動して以来、学内で個性的な位置付けの中、多くの優秀な人材を輩出してきました。卒業後も制作・発表を続けていく人も少なくなく、活動しているコース卒業生同士でのネットワークも大変強く築かれています。

この日は現在の版画コースに所属する在校生・院生も含め、総勢130名ほどが参加し、これまで関わって頂いた先生方もお呼びして、昔話や、近況、制作状況など話しながら、旧交を深めていました。また、設立時より現在まで、版画コースの主任教員として粉骨碎身してきた西村正幸教授が

## 第30回 同窓会総会 開催[11月26日(日)]のお知らせ

記念すべき第30回同窓会総会を、この11月に開催いたします。今年度は名古屋市中区金山駅すぐの「ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋」が会場となります。

総会では昨年度の活動報告、これから活動予定、予算の収支報告といった、会員の皆様にとって大事な内容を議事運営しております。どうぞ総会からご参加くださいますようお願い申し上げます。総会後に行なわれます懇親会につきましては、会

[記事へのお問い合わせは…](#)

〒481-8535  
愛知県北名古屋市徳重西沼65  
名古屋芸術大学西キャンパス内  
美術・三井ビル学部同窓会事務局

TEL 0568-24-0325 (大学代表)  
TEL/FAX 0568-25-4190 (直通)

向志芸TTFは大学のサブドメインで入手してください。[→ http://www.nua.ac.jp/](http://www.nua.ac.jp/)

◆現在同窓会では、月一度の会議、年一度の総会・懇親会を開催している。

続雲などの活動に積極的に参加・お手伝い頂ける向  
窓生を募集いたします。お気軽にお問い合わせ  
ください。(メールアドレス=nua.ad.aa@gmail.com)



「神フィニッシャー、  
ご存知？」



展覧会「The Figures The small world 3」(名芳洞、名古屋)の会場にて。

# 田川 弘さん 絵画科洋画専攻9期卒

——もともと絵画を発表されていたんですね？

大学卒業後、働きながら絵を描いていました。28歳の時かな、同僚から「中日展ってのがあるから今から一緒に出そう。今描いてるそれでいいじゃん」と誘われて。どういう公募かも知らず、その日に会社のトラックを借りて搬入に行って、一週間後中日新聞から「大賞おめでとうございます!」って電話がかかってきた。1等ですって言われても賞の種類も分かってなくて、とにかく「ありがとうございます!」って言ったけど(笑)それが最初

その作品は東京の安井賞に推薦されて、そこで入選したので第32回安井展にも展示されました。

その後もいくつか展覧会に出していて、その頃が平面作家として一番書かっ子でしたわ

当時描いていたのは等身大の女性です。高校の頃からずっと女性を描いていました。

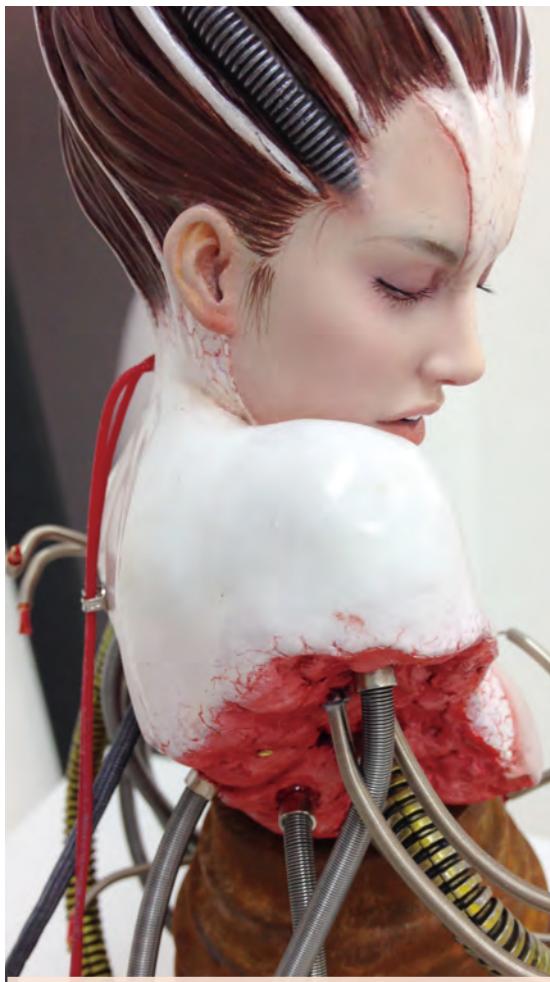
——フィギュアに移行】たきつかはは

展覧会をやるうちに何回も壁に当たるんだけど、そのうち乗り越えられなくなつて平面がつまらなくなつてしまつた。僕は女性を平面で描いていたけど、それは描くというよりその空間に人形を作つ

ているという意識でした。周りには理解されなかつたけど。それで平面に限界を感じて筆を折っちゃ

たんです。あとはこの頃から自転車が楽しくなって、子供が生まれた時期で、帰宅して子供の世話をしたりして、暇になつたら自転車で山に行くという生活を繰り返していました。今も乗ってるけど、この時期自転車も重要な要素ですね

それから暫くして、雑誌に女性ヌードのフィギュアが載っているのを見つけました。「皆もこれに色つけてみよう」みたいな内容だったかな。それをてたら燃えてきちゃって。この時初めてフィギュア色をのせたんだけど、なんだかすごくそれが自にできてしまった。まさに平面で感じていた限やもどかしさ、あれはこれなんだ!って。そこからどんどん嵌っていました。



上『BRIDE』nonscale resin kit model  
原型師：佐野好彦  
※まつ毛追加 ※胸部から下の造形

——制作のペースを教えてください。

制作するのは会社から帰った後の2~3時間と休日で、僕のペースは月に2~3体位。油絵具はすぐに乾かないから「一つある程度までやって、次乾くまでこれ」って同時進行で廻して、月にそれくらい仕上がっていきます。

同時に進めるのは心の切替が難しいけど、やり始めちゃえば一気に進んでしまう。だからできるってもあります。1体だけだったら乾くまで悶々してしまうから。

——田川作品の特徴の一つ、描写について。

(ホクロや手足の血管など他の人が描かない表現をすることについて)ホクロは最初キズやゴミを隠す為に入れてたんだけど、そのうち「この辺に入れると味がでる」ってありがたみに気付いた。それから意識的に入れるようになって、今は普通にやります。初めてやる時は汚してしまうので最初の一点は勇気がいましたね。既存のキャラクターでも、その設定を無視してやることもあります。

実体顕微鏡を使い始めたのは3年前からで、今ではこれ無しでは生きていけないくらいだけど、これも慣れるのに2~3ヶ月かかりました。メインで使っているのは20倍。一般的には8倍なのかな。筆で描くんですが、肉眼では尖って見える面相筆の先が20倍で見ると松葉箒のようになっているので、それをまっすぐ尖らせて描く。これで顔が1cm位の小さいものの瞳とかも描いています。拡大すると人間と同じように虹彩があるんです。

あとはまつ毛の装着にも使います。市販のつけまつ毛を0.6~0.8mmの長さに切って、一本一本つけていきます。

——フィギュア独特の髪の造形と細密な描写が合わさる事で、逆にリアル感が増す所が凄いと思います。

よく言われるんです、なぜここまで描写するのにドールヘアにしないのかって。でもだからこそギャップの面白さが伝わるし、あと髪の造形って原型師さんに聞くと、すごく難しいらしくて。そのせつかく苦労して作られたバランスを変えてしまうのは失礼じゃないですか。だからあえてキットのまま作っています。

——田川さんの展示からは空間の認識だけでなく平面の目線もやはり感じられますね。

フィギュアの塗装を始めた頃はインスタレーションが流行ってきた時代でもあって、自分も昔から個々の作品というより展示空間をどう見せるかを意識していました。この認識は今も変わらず続いているです。

今回の個展は撮影OKなんだけど、これはアート系の狙いがあります。来場者が撮影した目線や撮る行為、それも一つの絵で、さらにネットで流してもらう事で反応があったり、そんな展示から繋がる行為もアートだと思うんです。そういう事を今回はやっています。

——ガレージキットというジャンルから生まれたフィニッシャーという存在。全てのフィニッシャーの作品がアートとは言えませんが、田川さんの作品からはその描写と空間から魅せられる物語が合った瞬間、圧倒的な「何か」が溢れるのを感じました。また2年後に個展を予定のこと。さらなるご活躍を期待しています。ありがとうございます!

たがわひろし／1959年、宮崎県生まれ  
1988年 中日展「大賞」受賞(名古屋市博物館)

1989年 第32回安井賞展(東京西武美術館)

1992年 東海の作家たち

(愛知芸術文化センター開館記念展)

1995年 リアルフィギュアと出会い

2014年 モデラーズエクスポに招待出品

(大阪ATC)

2015-2017年 ワンダーフェスティバル冬(千葉幕張メッセ)

#### ■ 主な個展 ■

1992年『ANIMA』:ギャラリーはくぜん(名古屋)

1996年『Works.1988-1996』ギャラリー沙和(名古屋)

2006年『田川弘展』名芳洞blanc(名古屋)

2017年『The Figures The small world 3』

名芳洞(名古屋)

田川弘さんホームページ  
<http://gahaku-sr.wixsite.com/pygmalion>



左写真／展覧会場にて観客の質問に答える田川さん。

下写真／『KONNY・ERDE・SOIL・LUCE』  
1/6scale resin kit model 原型師：klondike  
※それぞれにまつ毛追加 ※SOIL サスペンダーに金具を追加  
※ERDE ボタンを立体的に表現



編集からデザインまで  
本作り専門のプロダクション『muse』

## 飯村 隆さん 21期卒 デザイン科ヴィジュアルデザイン専攻

め現場では経験と実績のある職人(写植オペレータ、レッタチマンなど)を解雇し、デザイナーはMacのオペレーションを求められました。新卒は即戦力を求められ、当時のMacのOSは『System 7.5』の凡庸機で最低でも30万円近く高価で、それを使いこなす為の訓練にもお金がかかりました。今思えばデザイナーの立場は機械に鞭で打たれる馬車馬のような光景です。バブル経済崩壊は優秀な人材と素晴らしい技術をも崩壊させてしまった気もします。そうした中、愛知県を離れ出版業界に就職しました。

——学生時代の恩師との思い出は?

解りやすい情報整理を河本先生に指導をしていただき、落合先生からは常にどう見えるのか、そしてどの様に見られているのか、考えていくかを学びました。在学中及び卒業をしても未だに両師匠には一度も褒められたことがなくお世話になっていますが今だ『鳴かず飛ばず』でご迷惑をかけているのが現在です。

——大学卒業後の進路は?

就職はしなかったというよりもできなかったかな?当時のヴィジュアルデザイン専攻でも50%は就職できず30%はデザインと関係無いところに就職したものだった。何處もいくところが無かつたので取敢えず研究生として残り再度 落合先生、河本先生の授業をチョイチョイ受けっていました。その当時はフヘンと思っていた事が、思い返すとそうなんだと納得する事多かったです。ナンカソダと長い学生気分を満喫していたところ、落合先生が笑いながら「名芸に貢献しているな~ その内お前の銅像が立つぞ」と言われました。

——装幀家を目指すきっかけは?

以前から本にはとても興味を持っていたので、気に入った本を求めて書店によく通っていました。ただ今も昔も変わらないかもしれませんですが学生は貧乏貴族。お財布財務省は財政難でしたので、書店に立ち寄った後、其の足で数百円握りしめて古本屋に行くのが日課でした。背表紙が光って見えるモノは手に取って流し読みをして、買うか買わないかで私の心の中は龍虎の戦いをしていました。

——本の旅人ですね~

そうですね。そうした書店通いを続けていたところ思わず人に出くわしました。古本屋で目に止まった本を手に取ろうとした時、サッと横から奪われ「誰なんだ?」と顔を見たらそこには落合先生がいました。

——就活するときの社会状況はどうでしたか?

バブル経済がハジケ、企業は人件費、広告費などを減らすのが目標だった節がありました。そのた

——装幀家としての活動を教えてください。

幻冬舎の2作品を紹介させてください。

個展  
1998『再従兄弟の木村隆君展』ZONE GALLERY  
グループ展  
2001『Oullin,the Great Harmony』Seoul international Fax Art exhibition  
2011 明治神宮文化館宝物展示室『海森彩生』写真公募展  
『地球はともだち・環境ポスター展』  
2012 新宿区ランプ坂ギャラリー(13年も開催)  
2012 横浜美術大学大学ギャラリー(16年まで毎年開催)  
2014 専門学校山脇美術専門学院『山脇ギャラリー』  
(16年まで毎年開催)  
2016 釜山国際タイポグラフィック展/韓国イラストレーション学会国際招待展

『muse』(ミューズ)のホームページ  
<http://muse-9.jp/>



□ 大人向け童話「カラスのクーファー」



□ 児童書「大いなる道」



最後になりますが、今後も装幀家として著者と読者をつなぐために試行錯誤し、本を通して皆様に感動をお届けできるよう活動してまいります。



# 矢部俊一さん 彫刻科19期卒

湿気の多い愛知県の夏。北名古屋市でも軒並み30度を超える日が続く7月に、アートクリエイターコースの陶芸クラスでは、ゲストに彫刻科卒業の矢部俊一さんを迎えて、レクチャーとワークショップを行いました。そのレクチャーでもお話くださった、「滋賀県陶芸の森」でのレジデンス経験、現在の制作テーマなどについて、お話を伺いました。



「備前 X 矢部俊一 X 信楽」アーティスト・イン・レジデンス企画展 会場風景  
滋賀県立 陶芸の森 陶芸館ギャラリーにて、  
2016年4月2日(土)～5月5日(木)の期間開催され、初日はセレモニーやトークも行われた。

——レクチャーに続き、ワークショップとお疲れ様でした。今の名芸生は、いかがでしたか？

当時の私みたいにヤンチャな子はいなくてみんなとても素直で良い子ばかりでしたね。昔の彫刻科は荒くれ者が多かったんです。

何人かの生徒さんは素材に問題を抱えていて沢山質問をしてくれました。解決したいという熱い思いが伝わってきて、こちらも力が入りましたね。



滋賀県立陶芸の森アーティスト・イン・レジデンスにて、制作の様子。

滞在中で一番のメリットは、無料で英会話が学べることかな（笑）。冗談はさて置き、信楽陶芸の森でのレジデンス生活は二年間に渡り約10ヶ月の滞在になりました。レジデンスの醍醐味は国内外のアーティストと地元の方との交流だと思います。中でも奈良美智さんと一緒に出来たり、いつか会ってみたいと思っていたヨーロッパの作家さんと一緒に制作できたり、毎日が本当に刺激的でした。

トラブル続きだった土の研究にも没頭出来ました。地元の信楽試験場の方に協力していただき、オリジナルブレンド土も開発出来ました。備前には無い全く新しい粘土です。

慣れない土地での生活や沢山のアーティストと同じ空間で仕事をするという事に初めは戸惑いましたが、大勢の方と交流し、新しい発見、考え方など刺激をもらい、沢山の事を学ぶ夢のような時間となりました。この歳で学生生活のような体験が出来て不思議な気持ちでした。

——作品についてお聞かせください。「空刻」というタイトルで発表が続いている。これまで日本の、仏教的なタイトルが多いように感じます。

「空刻」は概念です。それを設定する事により制作上のコンセプトを明確に出来る。作風や同素材の微妙な違いは自分自身がカテゴライズしていく

——レクチャーの中で、2015年から翌年の初春にかけて滞在した「滋賀県陶芸の森」でのアーティスト・イン・レジデンスについていろいろとお話し下さいました。

確かに空刻の空には仏教的な考えも含ませています。『色即是空 空即是色』は全ての心理を物語る言葉です。お経は小さな時からよく唱えていたのでこの言葉は刷り込まれていました。一種の洗脳ですね（笑）。空は本質、色は幻と捉えると良いと思います。物事の表面ばかり追うではなく本質を見抜く。そしてその答えは「自分の役目」と考えます。

その役目とは何かを考えると、自分自身が何かの役に立つ事。それで十分なんです。しかし、それは本当に難しい…。一生かけて出来ないかもしれない。でも出来ると信じてやるのです。長くなりましたが、それが「空刻」の答えです。壮大で重い話になりましたね（笑）。

私はどうしても彫刻家になりたかった思いがありました。本当になりたかった。憧れかな？その思いが手法の転換になりました。粘土が柔らかい内に成型するのではなく、ある程度乾燥硬化した後、削り込んでいく方法を考えつきました。カンナを研ぎ、彫り出す。気分は彫刻家です（笑）。

——制作スタイルがちょっと変わっていますね。薄暗い中でスポットを当てながら作業する理由はなんでしょう。

ある時、写真に写る作品のクオリティの低さにショックを受けました。「写真は嘘はつかない」と写真家に言われ本当に落ち込みましたね。幾ら作品の精度を上げてもカメラの前では誤魔化せない…悩みました。

閃いたのが、いつも自分の目をカメラにすれば良いのでは？と、暗い所で強い光を当てると曖昧なグラデーションがはっきりと目視出来る。今までスルーしていた凹凸が見えるようになり、精度の高いフラットな面やカンナの削り跡の処理などにも有効でした。その時気付いたことは、人間の五感はアバウトでいい加減だと、直ぐに慣れてしまふことがあります。

暗室の中で制作する事によりカメラの露出（絞

り？）調整の効果を実現出来るようになり、作品の精度が格段に良くなりました。そして反比例して視力が落ちた事は言うまでもありません（涙）。



薄暗い中、作品の表面にスポット当てで進めていく。

——陶芸家のものとに生まれ、彫刻を学び、そしてまた地元備前に戻り制作してらっしゃいます。最後にこれからの活動や制作への思いをどうぞ。

備前焼は約900年程の歴史があると言われます。祭器から雑器、そして茶器など、時の流れに合わせ長い間作り続けられてきました。いま、その最前線に自分が立って制作させていただいているわけで、備前に生まれ育った私はこの備前焼に携われる事に誇りを持ち作り続けられたら本当に幸せだと思います。

今年の初めに父が他界しました。師匠でもありライバルでもあった父の最期を見取り、終わり方の大切さを感じました。言葉少ない父でしたが、生き様を見せてくれたように思います。父が亡くなった年齢の75歳まであと27年。ラスト四半世紀のつもりで突っ走りたいと思います！



やべしゅんいち 陶芸家

略歴

1968年、岡山県備前市生まれ。1993年、陶芸の道に入り祖父 山本陶秀（人間国宝）、父 矢部篤郎（日本工芸会正会員）の指導を受ける。

2004年 岡山県美術展岡山県知事賞受賞  
茶の湯の造形展入選（以降5回）  
2008年 日本伝統工芸中国支部展テレビせとうち賞受賞  
第46回朝日陶芸展入選

2009年 第3回菊池ビエンナーレ入選

2010年 日本伝統工芸中国支部展広島県知事賞受賞  
第25回国民文化祭美術展備前市長賞受賞

2011年 第9回国際陶磁器フェスティバル美濃入選

岡山県美術展奨励賞受賞

2012年 Art Fair「Collect」（英・ロンドン）

Marianne Heller Galleryにてグループ展（独・ハイデルベルグ）

2013年 名古屋松坂屋個展、アートフェア東京

2014年 Fine Art Fair「AIAF」（米・パームビーチ）

「TEFAF」（オランダ・マーストリヒト）

2015年 信楽陶芸の森にゲストアーティストとして招聘

フェアートミュージアム横浜'88展

酉福ギャラリー個展（'12も開催）

2016年 「備前X矢部俊一X信楽」展（陶芸の森）

「焼締—土の変容」展（海外巡回展）

「伝統の未来 The Future of Japanese Tradition」展

2017年 「焼締—土の変容」展（米・ロサンゼルス、シアトル、シカゴ / 加・トロント）

パブリック・コレクション

大英博物館（英）、アジアアートミュージアム（米）、国際交流基金

## 助手展の 後援を 行いました

近年、首都圏の芸術大学を中心に助手展が盛んに開催されています。助手というのは大学により役割に差はありますが、学生にとって教えてもらうだけでなく、相談相手として一番身近に影響を受ける先輩もあります。OB・OG展とはまた違った視点から在学生へ還元できるのではと、同窓会では昨年10月に開催された助手展の特別後援を行い、今年も継続して後援することとなりました。昨年の展示では美術・デザイン両学部の助手による共同作品が展示されるなど見えた内容で、今年も期待が高まります。



▲昨年2016年助手展の様子▼



## 2017年度 名古屋芸術大学美術・デザイン領域『助手展』

会期：2017年10月10日(火)-20日(金)12:00-18:00(土日休)

場所：Xギャラリー/Zギャラリー/和室 他

出品者 助手：デザイン領域所属=石神千春(イラスト)・氏田英里(ファンデーション)・佐藤義之(メタル&ジュエリー)・澤邊美駒(インダストリアル)・城里奈(ヴィジュアル)・土屋花琳(メディア)・寺澤詩織(ライフスタイル)・西岡毅(スペースデザイン)・古川理恵(テキスタイル)・水谷仁美(メディアコミュニケーション)

美術領域所属=山口諒/奥村岳史/新川恵理(洋画)

技術補助員：美術領域所属=帆畠晴日/安藤由香(日本画)・大西佑一(工芸)・山本千晴/山本真弥圭(アートクリエイター)・伊藤沙織(版画)

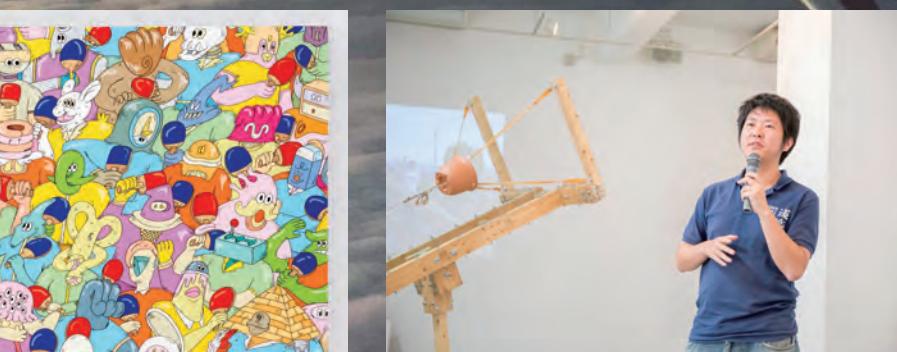
## OB・OG展 2017が 開催されました

今回で4回目の開催となる『OB・OG展』。5月19日(金)から24日(水)までの会期で、道楽同盟／増成峻平さん、佐竹佑太さん(36期 彫刻卒)のチーム、そして平田あすかさん(30期洋画卒)と、服部敬太さん(39期デザイン卒)が作品展示を行いました。初日は作家トーク、オープニングパーティーがあり、在校生含め多くの方にご参加・ご観覧いただけました。

写真右／初日のオープニングにてアーティストトークを行った。当日参加することの出来なかった服部さんを含め、各プロフィールを紹介しているところ。



写真上／服部敬太《Table tennis》1000×500mm、インクジェットプリント  
写真下／服部敬太《banana》500×500mm、インクジェットプリント



写真上／アーティストトーク中の道楽同盟。メンバーの一人、増成峻平さん。  
写真下／道楽同盟の作品《ToPPaPo》。インクの入った水風船を、投擲器により離れた和紙に打ち付け着色していく。



### 服部 敬太 (KEITAMAN)

デザイン学科ヴィジュアルデザインコース卒業  
2009 ニッポン展  
2010 MOUNTEN  
2011 Red Bull Doodle Art ファイナリスト  
2012 世界に羽ばたくキャラクター発掘大作戦 入選  
2013 アイデムホームキャラクターコンペ 当選  
個展 FLAT MONSTER SHOW  
2015 グループ展 チャンネル  
2016 グループ展 FOOD BEFORE ROMANCE

〈ホームページ〉 <http://keitaman.com>

### 道楽同盟 増成峻平と佐竹佑太によるアートユニット

企画  
2016 ToPPaPo in 香嵐渓 (豊田市)  
2013 4hon210函 岩瀬文庫で楽しむアートな3日間 (西尾市)  
展覧会  
2016 みのかもanual2016 (美濃加茂市)  
秋の小旅行 (瀬戸市)  
亀崎せこみち展2016 (半田市)  
時紡庭 完成お披露目 (一宮市)  
旧加藤邸アートプロジェクト2016 (北名古屋市)  
2015 足助ゴンナーレ2015 (豊田市)  
ONGAESHI 国際美術交流展 (Bremen)

### REN-CON-ART-PROJECT 連携する現代アート

(名古屋市)  
旧加藤邸アートプロジェクト2015(北名古屋市)  
2014 ONGAESHI 国際美術交流展 (一宮市)  
刈谷アートフェスティバル (刈谷市)  
旧加藤邸アートプロジェクト2014(北名古屋市)  
2013 勝川ハロウインナイトパーティー (春日井市)  
2012 金蓮寺 竜神物語 (西尾市)  
2010 西尾城下町芸術祭 (西尾市)  
ワークショップ  
2016 きそがわ日和ワークショップ (美濃加茂市)  
舞台美術  
2015 マイマイカニバル実験映像上映会『病』(名古屋市)

## 平田 あすかさん 絵画科洋画専攻版画コース 30期卒

2005 名古屋芸術大学大学院美術研究科造形専攻修了

### 主な個展

2009 現代美術の発見「サボテンノユメ」愛知県美術館  
展示室6/E・愛知  
2010 「エキゾチック」六本木ヒルズ A/D Gallery/東京

### 主なグループ展

2004 大人揚棄(Art & Design Center BE/E・愛知、  
CAP HOUSE/兵庫、PRAHA/北海道)  
2005 「つをぬいて。」日本・メキシコ・スペイン/ARTIST  
in RESIDENCE(名古屋大学 野依記念学術交流  
館、Art & Design Center BE&be、善光寺別院  
願王寺 書院明光閣/愛知)  
GRABANDO (Museo de los Pintores  
Oaxaqueños/オアハカ/メキシコ)  
2006 文化風情(正修科技大学藝術中心/高雄/台灣)  
2007 JANA LEO KESHO (Rahimtulla Museum of  
Modern Art/ナイロビ/ケニア)  
2009 International Workshop for Visual Artists  
(Galleri SPOR /ブランデ/デンマーク)  
2011 nowhere-ここではないどこか-(Bunkamura  
Gallery/東京)  
2013 Recto emotion~刺繡表現に見る今日の作家たち~(日本橋高島屋 美術画廊/東京)  
2016 妖-あやかし-のアクアリウム(PARK HOTEL  
TOKYO アートラウンジ/東京)

### 滞在制作

2004 大人揚棄 (旧札幌市立曙小学校 / 北海道)  
2005 GRABANDO (Taller de Artes Plasicas  
Rufino Tamayo / オアハカ、メキシコ)  
2006 PENSAT i FET (Universidad Politecnica de  
Valencia / バレンシア、スペイン)  
2007 JANA LEO KESHO (Kuona Trust Artist  
Studios / ナイロビ、ケニア)  
2009 International Workshop for Visual Artists  
(REMISEN / ブランデ、デンマーク)

### ワークショップ

2005 造形ロマン/名古屋大学教職員組合情報言語系支  
部(名古屋大学IB電子情報館中棟屋上 / 愛知)  
Intercambio Japon-Afromexico-Espana  
(CIMARRON CENTRO CULTURAL / オア  
ハカ/メキシコ)  
2007 Wajukku Arts Project (Slum Ruben  
Centre / ナイロビ、ケニア)



今回OB・OG展に参加してくださったアーティストの一人、平田あすかさん。展覧会に参加してみて、あらためて感じたことや、今後の予定などお話をいただきました。

——大学に戻りギャラリーにて展示してみて、学生の時とは何か違いなど、気がついたことはありましたか。

大学を卒業する頃は、卒業しても作品作りを続けていたが、卒業後は他のアーティストと一緒に活動する機会が多くなったので、OB・OG展のように卒業生として、大学でまた展示させられることもでき、大変嬉しかったです。

学生の頃は、今回のように大きいBEギャラリーと小さなbeギャラリーを使って、展示をするだけの作品数がありませんでした。今でも手が遅く、展覧会前などは大変なのですが、この様な広いスペースでも、なんとか展示できるぐらいの作品が側にあって、10年間続けてこられたことをよかったです。それぞの年に作ってきた作品を、今回のように一つの空間に並べる事ができたことで、時間が違っていても、作品の内容につながりがあることに嬉しさを感じました。

また、ベルベットやオーガンジーの布の作品、アクリルや石油粘土の立体など、今までの作品と同じ空間に並べてみると、私にとって、また次の展開を考える良い機会になりました。

——オープニングトークを含めて、多くの在校生が参加・観覧してくれましたが、いかがでしたか。

普段は一人で作っているので、多くの人の前であったり、作品について何か言われたりすると緊張してしまいますが、今回は沢山の学生さんに来ていただき、話を聞いてもらうことが素直にとても嬉しかったです。

——卒業後、制作を続けていくわけですが、最初はいろいろと大変なことなどあったのではないでしょうか?作家活動を通して、社会とのつながりなど意識し直したことなどありますか。またどんな風に制作を進めていらっしゃるのでしょうか。

制作を続けていると、いろいろな方々から手助けしていただくことがあります。



《春のうたた寝》 ベルベット、刺繡糸、レース、パネル 83x110cm 2017年

在学生の時ですが、滞在制作を企画して、一ヶ月間北海道へ行った時のことです。札幌に着いた時には、11月の寒い時期、まだ泊まる場所も決まっていない状態でした。

そんな中、近くの商店街の方達が心配して、廃校になった小学校を宿泊場所として提供して下さいました。

また、近所に住んでいる作家さんや北海道大学の学生さん達が、布団を用意してくれたり、ご飯を作って持って来てくれたり、観光にも連れて行ってもらったりと、とてもお世話になりました。外国などで制作する機会ができた時も、それは変わりませんでした。



左から《終夜 -七日月-》《終夜 -新月-》  
アクリル絵具、キャンバス 72.7x60.6cm(F20) 2011年

今も作品を発表する場所を与えて下さるギャラリーの方など、続けていくために手助けして下さる方たちがいて、多くの人に支えられているお陰だと思っています。学生の時に、そのことを感じることができたのが、良かったと思っています。

制作をする時は、新聞やニュースなどで気になっていたことを読んだり調べたりして、スケッチブックに描いていきます。私の作品は、人が植物や他の動物などを繋がっているものが多くありますが、自分の周りの生物や出来事をいつも身近に感じていたいなと思っています。

——今後の発表の予定など、お教えください。

11月4日から12日まで旧加藤邸アートプロジェクト2017「記憶の庭で遊ぶ」に参加させていただきます。旧加藤家住宅は明治時代に作られた建物で、日本の生活様式の伝統が息づいています。その建物と庭に、名古屋芸術大学の学生と卒業生が公募などにより作品を展示します。今回で8回目ということです。このような場所で、どのような展示になるのか、とても楽しみにしています。